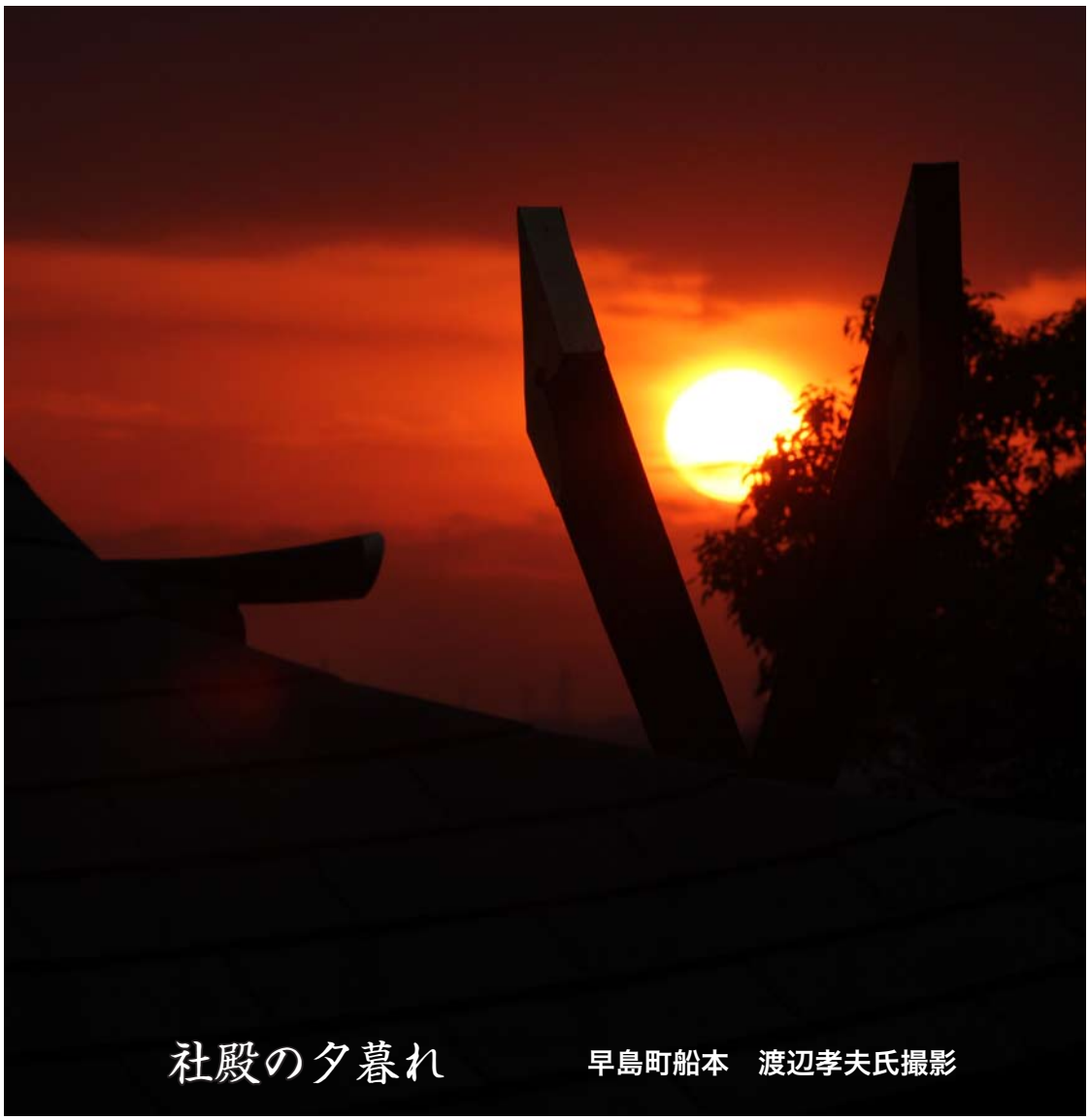
つるさき



社殿の夕暮れ　早島町船本　渡辺孝夫氏撮影

発行所
鶴崎神社
〒701-0304
早島町早島2220
TEL 482-0097
FAX 697-6067
IP-phone
050-3318-1809
URL
http://www6.ocn.ne.jp/~turusaki/

当社本殿の千木（ちぎ）をシルエットに西の空に沈みゆく太陽に空が赤く焼け、凛とした清浄感が漂う渾身（こんしん）の１枚である。

この作品は、山陽新聞主催第３回吉備の国寺社巡りフォトコンテストにおいて佳作に選ばれ、山陽新聞さん太ギャラリーに入賞作品51点と共に展示された。

第４回フォトコンテストも開始されており、平成26年６月27日まで応募できる。問い合わせは当社又は山陽新聞社広告本部まで。

歴史を継承する神社

今年の夏は温度計が三五度を超える日が続き、殊の外暑さが身にしみた夏でしたが、境内では早朝から子供会のラジオ体操や日参される方がおられました。

その一方、山口県や島根県では豪雨により大きな被害を被り、自然の恐ろしさを実感した夏でもありました。

暑さも一段落すると、早いもので、もうすぐ秋祭りの季節がやってきます。

今年は、出雲大社のご遷宮に続き二十年に一度の伊勢神宮式年遷宮が十月二日には内宮（ないくう）、十月五日には外宮（げくう）で行われます。

千三百年にわたり連綿と続けられている式年遷宮は、天照大御神の魂の蘇りをも求めた古代の日本人の叡智が垣間見られる制度です。

遷宮が終われば、当社の秋祭りも目前です。十月十九日の供膳祭には本殿に三十台ものお供え物が奉られます。翌日には、二七〇年の歴史を誇る御神幸を一五〇人もの供人の方々と奉仕致します。氏子の皆さんでお出迎えして下さい。

神道Q&A

【質問】

十月になると全国の神社の神々が出雲に集まり、神々がいなくなるので十月のことを「神無月（かんなづき）」と呼ぶようですが、全国の神々が本当にいなくなるのでしょうか。

【答え】

十月の古称は神が無い月と書いて「神無月」と呼ばれていることはご承知の通りですが、神無月の由来は、色々な俗説があります。

その一つには、十月に全国の神々が出雲大社に集まり、年に一度会議を開くので、諸国に神がいなくなることから「神無月」になったとする質問の説があり、出雲地方では十月を反対に「神在月（かみありづき）」と呼んでいます。

その二つには、十月は雷が鳴らない月なので「雷無月」が転じたとする説があります。

その三つには、十月は新穀で酒を醸（かも）す月なので「醸成月」が転じたとする説があります。

しかし実際には、十月は全国的に秋祭りが行われ、神を祀る月であることから「神の月」であり「神無月」とする説が有力とされています。

「無」は「の」を意味する格助詞「な」となります。従って神無月（かんなづき）は「神の月」秋祭りが行われ、神を祀る様子を表し、水無月（みなつき）は「水の月」田植えをするので田んぼに水を湛えている様子を表します。

従って、十月になると全国の神社の神々が出雲に集まり、神々がいなくなるのではなく、神祭りを行う月であり、出雲大社へは神社の分霊が集まると解釈できます。

神迎祭が行われる稲佐の浜に沈む夕日

八、六〇〇人の参列者に見守られ

平成の大遷宮執行

出雲大社（島根県出雲市大社町）では、五月十日、六十年に一度となるご本殿の改修が完了し、御神体を五年ぶりにもとの本殿に遷す「平成の大遷宮」が行われた。朝からの雨もあがり、境内に所狭しと並べられた椅子には、氏子を始め全国から約八、六〇〇人に上る参列者がその時が来るのを見守った。

千家国造（宮司）以下一〇〇名に及ぶ神職が奉仕して、御神体が装いも新たな本殿に遷されると、喜びの雨が落ち、宮司、勅使（ちょくし）の祝詞奏上、三笠宮、高円宮両女王殿下の拝礼と続き一大重儀を締め括った。

安原伝兵衛物語

2

安原伝兵衛は備前岡山の近郊早島村で生まれた。稼業は稲作、藺草（いぐさ）作り農家だ。

子供の頃からおばアに連れられ、神社仏閣に参詣したから信心深かった。読み書きも本家筋になる村の御崎宮（鶴崎神社）の神主から学んだ。長男なので、跡取り息子として期待されていた。農作業が好きで、暇さえあれば田圃に出ていたから申し分のない婿だと、早々と嫁取りが決まっていた。

許嫁（いいなずけ）は隣村の「おさき」、器量よしで二人は似合いの夫婦になるぞと噂されていた。安原家の本家は豪農で、伯父は村で一目置かれる人物だった。しかし、それに満足せず新しい大きな話が何より好きで、おばアは伯父が伝兵衛の父と付き合うのを嫌っていた。

ある日、父は本家から悲槍な面持ちで戻ってくると、仏壇の前に坐り、「えらいことになってしもうたがな、ご先祖様に合わす顔がのうなってしもうた」とうわごとを繰り返す。

「黙っとらんと言うてつかあさい」

おばアとおかアが問い詰めた。

父は重い口を開いて言った。

「本家が倒れるらしい」

「本家が？そりゃ大変やけんど、うちはうちや」とおばアが慰めると、父は「請判押しちょるけん、おえんのじゃ」と泣き声になった。

「このバカたれが、あれほど伯父は信用ならんと言うとったじゃろ」おばアが凄い剣幕で怒り出した。

父は養子で日頃からおばアには頭が上がらない。「もう一度相談して見るけん」覚束（おぼつか）ない足取りで出て行ったきり父は二度と戻ってこなかった。

信じられないけど父は逐電（ちくでん）してしまった。おばアとおかアは手を取り合って呆然としている。伝兵衛もあまりにも突然のことで、どうしていいやら判らない。体は自然と田圃へと動いた。ところが田圃には見知らぬ男が二人、勝手に杭を打ち、縄を張っている。

「こらア、うちの田圃に何するんじゃ！」伝兵衛は槌を振り下ろそうとしている男にむしゃぶりついた。

「お前とこの田圃やて？寝ぼけたこと言いなさんな、全部流れてしもうとるがな、はよどけッ」槌を持った男は伝兵衛を邪険に突き飛ばした。その瞬間、もやもやと溜っていた怒りが伝兵衛の中で爆発した。伝兵衛は猛烈な勢いで襲い掛かり、男を水溜りに突き飛ばした。二人の男が怒った。伝兵衛を二人がかりで撲る蹴る、ついには田圃へ叩き込んだ。

「ちいと思い知っただろう。この訳はお前の親父に聞いてみんさい」

おとうは逃げてしまった。悲しいけど現実を思い知らされた。泥だらけの惨めな姿で家に戻った。

「どがいしたん？その傷は？」

「たいしたことはないが。しやけど田圃を取られてしもうたけんな、情けないのう」

「うわア」

おばアとおかアが何とも言えない悲痛な声で泣き出した。つられて妹たちも泣き始めた。

（こんな悲しいことがあるもんか、昨日と今日とで、まるで極楽と地獄じゃな……、肝心なおとうは負けて逃げ出した。女が悲しんでる……、儂には何ができるんじゃろ？何んとかせにゃおえんのじゃ）

ある考えがひらめいた。

「ちいと出てくるわ」

「伝兵衛どこ行くんぞ？」

おかアが心配しての手を握って離さない。おとうに続いて消えてしまうのではと心配しているのだ。

「神主さんに会う」「それやったら私も行くけん」とおかアは手を離した。二人で御崎宮へ向かった。

（次回につづく）

責任役員・総代の改選

総代長に安原昇氏　副総代長に安原益重氏が就任

当社の責任役員及び総代は四年の任期で、今年が改選の年にあたることから、六月三十日に総代会を開催し、改選が行われ、次ぎの方々が就任しました。

役　職	氏　名	担当地区	備　考	留／新
責任役員・総代	安原　昇	塩津	総代長	留　任
〃	安原　益重	早高北	副総代長	〃
〃	小郷　正廣	金田		〃
〃	永原　耕吉	宮崎	会計	〃
〃	渡邉　武志	長津		〃
〃	衣笠　末夫	高須賀		新　任
〃	原田　典子	帯高三丁割		〃
〃	大森　茂	頓行・小浜		〃
総　代	渡辺　旭	市場	監事	留　任
〃	杉原　數柾	西田	監事	新　任
〃	赤木　敏明	片田		留　任
〃	亀山　秀明	前潟		〃
〃	河合　陽一	船本		〃
〃	今田　陸利	弁才天		〃
〃	横山　敏和	下前潟・久々原・三軒地		〃
〃	藤原　一也	無津		新　任
〃	光畑　正則	塩地・花町		〃
〃	佐藤　史男	早高南		〃
〃	岡　省司	帯高南古開		〃
総　代㈹	藤原　格仁	中帯江		留　任

鶴崎神社総代就任記念（平成25年6月30日）

当社も参加して
吉備の国寺社巡り開催

今年も山陽新聞社主催の、吉備の国寺社巡りが行われています。

交通の要衝として、古くから繁栄した岡山には、数多くの由緒ある神社、仏閣が創建され、長い間人々の信仰を集めてきました。

そんな岡山の由緒ある四十一の社寺を巡拝して、歴史を学び、岡山の信仰を再認識するべく始まったこの企画も第四回を迎えます。

神社、仏閣へ参詣すると当時に来年六月中旬まで、フォトコンテストとスタンプラリーも同時に行われていますので、応募してみては如何でしょうか。

応募用紙、ガイドブックは拝殿内に設置していますので、ご自由にお持ち帰り下さい。

吉備の国寺社巡り冊子

祭事暦

十月十九日（土）
鶴崎神社秋季大祭【供膳祭】［午前十時］
八幡神社秋季大祭［午後七時］
（露店あり）

十月二十日（日）［午前九時］　神幸祭

十一月中　七五三祈祷

十一月二十三日（土）［午後二時］
新穀感謝祭

一月二日（木）［午後二時］　年始祭

毎月一日［午前九時］　月次祭

※月次祭はどなたでも参列出来ますので、お誘い合わせ参拝下さい。